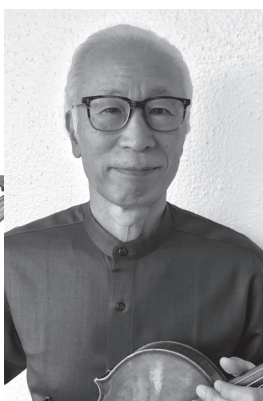




小菅 優 © Marco Borggreve



庄司紗矢香 © Kishin Shinoyama



磯村和英



石坂団十郎



FOCUS

12.17 日 新ダヴィッド同盟 第5回演奏会

初心に帰って、シューマン、ブラームスの室内楽作品を

文 関根哲也

日本を代表する若手ヴァイオリニスト庄司紗矢香を中心に、2010年に結成された水戸芸術館の専属楽団「新ダヴィッド同盟」。吉田秀和初代館長が命名したそのグループ名から連想されるように、ロマン派の作曲家ローベルト・シューマン（1810～1856）が夢みた音楽文化の偉人たちからなるグループ「ダヴィッド同盟」の想念を現代に受け継ぐと、高い意識をもって活動しています。

庄司紗矢香の呼びかけに応じたのは、佐藤俊介（ヴァイオリン）、石坂団十郎（チェロ）、小菅優（ピアノ）といった、国際的に活躍するいずれ劣らぬソリスト、室内楽奏者たち。そこに、東京クワルテットで長年ヴィオラ奏者を務め、庄司が尊敬するベテラン、磯村和英も加わりました。望みうる最高のメンバー、と言っても過言ではないでしょう。（※今回、佐藤俊介は都合により出演いたしません。）

初心に帰ったプログラム

今回の演奏会で「新ダヴィッド同盟」は初心に帰り、シューマン、そして“新しい道”としてシューマンによって世に送り出されたブラームスを特集します。

シューマンの作品からは、ヴァイオリンとピアノのために書かれた〈おとぎの絵本〉作品113と、クラリネットとピアノのために書かれ、チェロとピアノでもよく演奏される〈幻想小曲集〉作

品73。いずれも、シューマンならではの馥郁たるロマンティシズムを漂わせた名作です。両作品の間に絶妙な“気分転換”として置かれたコダーイ〈間奏曲〉（弦楽三重奏のための）にもご注目ください。

演奏会のメインは、ブラームスの〈ピアノ四重奏曲 第2番 イ長調〉作品26。3曲残されているブラームスのピアノ四重奏曲の中でもっとも演奏機会が少なく、室内楽ファンの間でも“地味な作品”というレッテルを貼られている作品です。演奏時間が約50分もかかるということも、人気を遠ざけている原因かもしれません。しかし、特に庄司紗矢香が「新ダヴィッド同盟」のメンバーとこの作品に取り組みたいと強く希望し、今回取り上げることにしました。20代の若きブラームスの筆による青春の輝きとさわやかなロマンティシズム、さらに将来を先取りしたかのような熟達した書法を、「新ダヴィッド同盟」のメンバーたちは明らかにしてくれるに違いありません。

出演メンバーの近況

最後に簡単に出演メンバーの近況を。相変わらず世界を飛び回っている庄司紗矢香は、「新ダヴィッド同盟」の直前、ヴァレリー・ゲルギエフ指揮マリンスキー劇場管弦楽団の日本ツアーのソリストとして来日します。磯村和英は東京クワルテットが解散した2013年

6月以後も精力的に演奏と教育活動が続け、サントリーホール室内楽アカデミーでの活躍ぶりなどは広く知られています。石坂団十郎は2012年に「齋藤秀雄メモリアル基金賞」を受賞後、ドレスデン音楽大学教授にも就任。演奏活動と教育とにますます多忙な日々を送っています。小菅優は、ベートーヴェンのすべてのピアノ付き作品を取り上げる「ベートーヴェン詣」が継続中であるほか、この11月からは水・火・風・大地の4元素をテーマにした新企画「4 Elements」をスタートさせます。

このような多忙なメンバーが水戸芸術館に集い、思う存分室内楽に打ち込む時間はかけがえのないものでしょう。クラシック音楽界の“奇跡”とも言いうる「新ダヴィッド同盟」の演奏会を、どうぞお楽しみに。

新ダヴィッド同盟 第5回演奏会

12/17 (日) 16:00 開演 (15:30 開場)

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM
全席指定 S席 6,000円、A席 5,000円
B席 3,500円
ユース (25歳以下) 1,500円

出演 庄司紗矢香 (ヴァイオリン)
磯村和英 (ヴィオラ)
石坂団十郎 (チェロ)
小菅優 (ピアノ)

曲目 シューマン：おとぎの絵本 作品113
コダーイ：間奏曲
シューマン：幻想小曲集 作品73
ブラームス：ピアノ四重奏曲 第2番
イ長調 作品26

12.3回 小さな聴き手のためのオペラ 「森は生きている」

大晦日の晩、少女と十二の月の精が出会い、奇跡が起きる—— こんにゃく座から小さな聴き手たちへ、とびっきりのオペラの贈り物

文 高巢真樹

早くも師走が近づいてきましたが、今年はどうな一年でしたか？水戸芸術館では、皆様の一年の締めくくりを華やかに彩る公演が目白押しですが、12月最初の週末に開催するのが「小さな聴き手のためのオペラ 森は生きている」です。日本語によるオペラの創作で高く評価され、当館にも多彩な作品を届けてきたオペラシアターこんにゃく座が、その代表作の一つ、「森は生きている」を上演します。大晦日の晩、ロシアの森を舞台に繰り上げられる楽しいファンタジーは、ご家族やお友達など、大切な人と観ていただくのにぴったりな作品です！

◆森がおしえてくれた大切なこと

この作品は、ロシアの詩人であり児童文学者のサムイル・マルシャーク（1887～1964）が、スラヴの伝説をもとに1943年に書いた戯曲が元になっています。原題は「十二の月」。物語は大晦日の晩、ロシアの森で繰り上げられます。とあるわがままな女王が気まぐれから、「四月にしか咲かないマツユキ草がほしい！」と言い出したことから、国中は大騒ぎ。ご褒美の金貨に目がくらんだ継母・義姉の言いつけで、少女はひとり、雪の降る暗い森に行くことになります。そこで彼女が出会ったのは、焚き火を囲んで新年を

迎えようとしている十二の月の精たち！森に来たわけを聞いた四月の精は、明るく優しい彼女のために、一時間だけ「時」をゆずりうけます。そこに広がった奇跡のような光景とは？そして最後に女王が得たものとは…？

スターリン芸術賞を受賞したこの戯曲は、モスクワ芸術座での上演をへて、日本では1954年に俳優座劇場のこけら落とし公演として、日本初演されました。「森は生きている」という秀逸な邦題は、ロシア文学者・湯浅芳子によるものです。このとき、芝居の音楽を担当したのが当時22歳だった作曲家の林光（1931～2012）。林さんは、芝居を観た子どもたちが、劇中歌「もえろ もえろ あざやかに…」と口ずさみながら劇場をあとにする姿を見て、「作曲を一生の仕事にしよう」と決意したそうです。音楽を、社会から切り離された抽象的なものとしてではなく、人と一緒に生きるもの、誰にとっても開かれたものとして創造してきた林光さんならではのエピソードです。その後、数々の独創的な日本語オペラをはじめ、多くの傑作が生み出されたことを考えると、オペラ「森は生きている」は、まさに作曲家・林光の音楽人生における記念碑だと言えましょう。

◆林光作曲のオペラ「森は生きている」の魅力

その後「森は生きている」の芝居が各地で上演を重ねる一方、林さんはさらに多くの場面にあわせて独自の歌を作曲し始めました。その中で生まれた歌の数々が、林光さん自身が芸術監督を務めていたオペラシアターこんにゃく座によるオペラ「森は生きている」の誕生につながりました。1992年の初演以来、このオペラは全国各地で多くの子どもたちを魅了し、林光さんとこんにゃく座による代表作のひとつとして愛され続けています。

わがままな女王や継母と義姉、そして取り巻きの兵士や女官、月の精たちなど、どのキャラクターも魅力的ですが、林光さんの音楽は、登場人物たちが繰り広げるドラマを、とても楽しいメロディで個性豊かに際立たせます。また、ユーモラスな表情や身体表現・演技とあわせて、明瞭な日本語で歌を届けてくれる歌役者たちをみれば、「オペラってむずかしそう」などというイメージはあっという間に吹き飛んでしまいうに違いありません。しかし単に「子ども向け」という枠におさまらず、物語から「人と人のつながり」や「自然の恵み」ということまで感じさせてくれる、大人にとっても深みのあるファンタジーです。観終わったあとは、そっと心に灯がともるような温かい気持ちになれることと思います。ぜひ皆様のお越しをお待ちしております！



小さな聴き手のためのオペラ 「森は生きている」

12/3 (日) 13:30 開場 (14:00 開演)

会場：水戸芸術館 ACM 劇場

全席指定 大人 2,000 円、子ども (5 歳以上 12 歳以下) 1,000 円、ベア (大人 2 人) 3,500 円 完売

原作：サムイル・マルシャーク (湯浅芳子 訳)

台本・作曲：林 光

演出：大石哲史

出演 オペラシアターこんにゃく座

※キャンセル券等がありましたら、公演当日の朝 9:30 よりチケット予約センター (TEL. 029-231-8000) にて受付いたします。

12.23 [土・祝] クリスマス・プレゼント・コンサート 2017 (企画・司会：池辺晋一郎)

聖夜に聴きたい！ 盛り沢山のスペシャル・コンサート

文 篠田大基

水戸芸術館で毎年12月23日に開催している「クリスマス・プレゼント・コンサート」は、開館以来続いている恒例のコンサート。今年も水戸出身で日本を代表する作曲家の池辺晋一郎さんによる企画と司会でお贈りいたします。

水戸芸術館の開館以来、20年以上にわたってこのコンサートの企画と司会を務めてきた故 畑中良輔 元音楽部門芸術総監督の後を受けて、池辺晋一郎さん(音楽部門ミュージック・アドヴァイザー)が企画と司会を務める「クリスマス・プレゼント・コンサート」は、今年で5回目となります。5年前、池辺さんと初めてこのコンサートの企画打ち合わせをしたときから案としては出ていたものの、ずっと実現していなかったアイディアがありました。それはたとえばバッハの《クリスマス・オラトリオ》、あるいはハイドンのオラトリオ《四季》の〈冬〉の部分、などなど。つまりクリスマスや冬に因んだ「オラトリオ」(宗教的なストーリーを持った管弦楽付き合唱曲)です。なかでもヘンデルのオラトリオ《メサイア》は、クリスマスの時期に世界中で盛んに演奏されている定番曲と言えるでしょう。イエス・キリストの誕生から復活までのストーリーを管弦楽と独唱、合唱によって綴ったこの大作(全部演奏すれば2時間半!)には、有名な「ハレルヤ・コーラス」をはじめ、数々の感動的な音楽が含まれています。今年の「クリスマス・プレゼント・コンサート」で取り上げるのは、この《メサイア》のハイライトです。想えば、このコンサートの前任の企画者であり、同時に「水戸の街に響け! 300人の《第九》」の企画者でもあった畑中良輔さんが水戸のお客様に親しまれ、街に根付いてほしいと願っていた作品が、ベートーヴェンの「歓喜の歌」、そしてこの《メサイア》でした。畑中さんが生前最後に企画した2012年の「クリスマス・プレゼント・コンサート」でも、《メサイア》は、「水戸の街に響け! 300人の《第九》」に数多く出演

してきたバリトンの清水良一さんやエレクトーンの小林由佳さん、あひるの会合唱団等の手で抜粋上演されたのでした。

「クリスマス・プレゼント・コンサート」では5年ぶりとなる今回の《メサイア》は、2012年の演奏メンバーであった清水良一さん、小林由佳さん、あひるの会合唱団のほか、「300人の《第九》」に小林由佳さんとともに出演を重ねるエレクトーンの八谷奈津美さん、さらに今回のコンサートの後半でソロ演奏も披露するメゾ・ソプラノの谷口睦美さんとトランペットの守岡未央さんにも加わっていただくことになりました。救世主の到来が予言され、ついにイエス・キリストが生まれるドラマティックな第1部、イエスの磔刑の場面を絵画のようにまざまざと音で描き出す第2部の合唱、華やかなトランペットが魅力的な第3部のアリア、そしてクライマックスを飾る有名な「ハレルヤ」と「アーメン」のコーラス。聴きどころ満載の《メサイア》ハイライトを、独唱と合唱、2台のエレクトーンとトランペットというスペシャルな編成でお贈りします。どうぞお楽しみに!

今回の「クリスマス・プレゼント・コンサート」にはもうお一人、スペシャルなゲストをお迎えします。バンドネオン奏者の三浦一馬さんです。水戸芸術館には3年ぶりの登場で、前回出演の際はギタリストの大萩康司さんとのデュオで大好評をいただきましたが、今回はソロ(無伴奏!)での演奏です。プログラムはもちろんアルゼンチン・タンゴ。森山良子のカバーで日本でも人気の〈想いの届く日〉、三浦さんの師匠でバンドネオンの世界的な権威として知られるネストル・マルコーニの〈ティエンボ・エスペラード〉、そして巨匠アストル・ピアソラの選りすぐりのタンゴをメドレーにしてお聴きいただけます。1台の小さなバンドネオンに秘められた情熱的で濃密な世界をご堪能ください。



「クリスマス・プレゼント・コンサート 2014」より

さらにさらに、「クリスマス・プレゼント・コンサート」はとにかく盛り沢山です! 三浦さんのステージに続いては、《メサイア》にもご出演のメゾ・ソプラノの谷口睦美さんとトランペットの守岡未央さんがソロ演奏を披露。ヘンデルや古典派のアリアやコンチェルトには《メサイア》の余韻が感じられることでしょう。数多くオペラ(そのなかには池辺さんのオペラ《鹿鳴館》も)に出演して高い評価を得ている谷口睦美さんの深い表情をたたえた歌声、日本音楽コンクール第1位の実力派である守岡未央さんの澄んだ音色、どちらも聴き逃せません。そして恒例のお楽しみプレゼント・コーナーや、エントランスホールでオルガニストの大山智子さんが演奏するパイプオルガンのミニコンサート(開場前と終演後に開催。守岡未央さんやあひるの会合唱団が共演)もごぞいます。

聖夜の楽しいひとときを、ぜひ水戸芸術館でお過ごしください。

クリスマス・プレゼント・コンサート 2017 12/23 (土・祝) 16:30 開場 17:00 開演

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM

全席指定 一般 ¥3,500

ユース (25歳以下) ¥1,000 円

企画・司会 池辺晋一郎

出演 三浦一馬(バンドネオン)、谷口睦美(メゾ・ソプラノ)、清水良一(バリトン)、守岡未央(トランペット)、小林由佳(エレクトーン)、八谷奈津美(エレクトーン)、大山智子(オルガン)、打越孝裕(指揮)、あひるの会合唱団 ほか

11.26 日 市内小中学校 水戸芸術館コンサート（第22回 クリスマス・コンサート） 小中学生が日頃の音楽活動の成果を発表します。

文 中村 晃

水戸市内の小・中学生が、合唱、金管合奏、吹奏楽など、日頃の音楽活動の成果を発表する演奏会です。水戸室内管弦楽団の楽団員代表でホルン奏者の猶井正幸さんと水戸室内管弦楽団にゲスト出演を重ねるトランペット奏者の若林万里子さんがコンサートの講評を行います。

参加校

〔午前の部〕柳河小（器楽合奏）、五軒小

（合唱）、千波中（吹奏楽）、五軒小（吹奏楽）、渡里小（金管合奏）、第一中（吹奏楽）、酒門小（金管合奏）、第五中（吹奏楽）、第三中（吹奏楽）、城東小（器楽合奏）、常澄中（吹奏楽）、千波小（吹奏楽）
〔午後の部〕茨城大学附属小（合唱）、堀原小（合唱）、茨城大学附属中（合唱）、石川中（吹奏楽）、緑岡中（吹奏楽）、三の丸小（吹奏楽）、赤塚中（吹奏楽）、堀原小（金管合奏）、茨城大学附属中（吹奏

楽）、内原小（金管合奏）、第四中（吹奏楽）、常磐小（吹奏楽）、見川中（吹奏楽）

市内小中学校 水戸芸術館コンサート 第22回 クリスマス・コンサート 11/26（日）

午前の部 10:00 開演（9:45 開場）
午後の部 14:30 開演（14:15 開場）
会場：水戸芸術館コンサートホール ATM
入場無料
後援：水戸市教育委員会

12.10 日 水戸の街に響け！ 300 人の《第九》2017

師走の水戸の風物詩！ 300 人以上の大合唱による《第九》

文 関根哲也

今年で 17 回目の開催となる「水戸の街に響け！ 300 人の《第九》」。師走の水戸の風物詩として、ますます市民の皆様の間に定着してきました。

“喜びにみちた調べにともに声を合わせよう”と呼びかけるシラーの頌歌「歓喜に寄す」をテキストに、人類の理想的なあり方が高らかに歌われるベートーヴェンの第九交響曲。暗いニュースばかり耳にする昨今、ベートーヴェンの音楽は、私たちが人間らしく生きていく上で、ますます切実に響くものになってきました。

その《第九》第 4 楽章を歌って街に元気を与えようと、一般公募、茨城県合唱連盟、水戸市合唱連盟を合わせて 300 名を超えるコーラス参加者が集まりました。9 月から練習に励んでいます。サラリーマンや主婦、音楽好きの高校生、定年後のご夫婦など、様々な人たちが参加者に名を連ねるこの合唱団は、プロの合唱団とは一味違い、その参加者層の厚みもたらす歌声の奥深さと充実感で、ベートーヴェンの平和と友愛の音楽に挑みます。

独唱には、「茨城の名手・名歌手たち」

出身者を中心に、結城滋子（ソプラノ）、山本彩子（アルト）、倉石真（テノール）、清水良一（バリトン）といった実力派歌手たちが出演。またオーケストラ・パートは 2 台のエレクトーン（小林由佳、八谷奈津美）、2 台のピアノ（中村真由美、中村佳代／リスト編曲による 2 台ピアノ版を演奏）、ティンパニ（山地章子）が務めます。打越孝裕（茨城県合唱連盟理事長）の指揮のもと、300 人以上の大合唱とともに音楽を盛り上げる独唱と器楽にも、どうぞご注目ください。

12.24 日 パイプオルガン・プロムナード・コンサート Xmas スペシャル

クリスマスイヴは、歌とチェロとオルガンが奏でる美しい調べを。

文 高巢真樹

当館が今年最後にお届けする音楽会は、「パイプオルガン・プロムナード・コンサート」のクリスマススペシャル（13 時開演・入場無料）です。出演は、オランダで研鑽を積み、数多くの国際オルガンコンクールで入賞歴を誇る山田由希子さんと、ソプラノの山田文子さんという素敵な姉妹。さらには日立出身で、古楽において国内外で活躍中の

チェリスト、山本徹さんも登場します。プログラムは、チェロとオルガンで J.S. バッハの〈アリオソ〉、歌とオルガンで〈御使い歌いて〉（イングランド民謡「グリーンスリーヴス」）にのせて歌われるクリスマス聖歌など、親しみやすい音楽が様々な組み合わせで演奏されます。年の瀬が迫る頃、ぜひ素敵な音楽で心和むひとときを過ごしませんか？



山田由希子



山田文子



山本徹 © Shigeto Imura

2017.9.15

ジョルディ・サヴァール・トリオ
ケルティック・ヴィオール

ヴィオール（ヴィオラ・ダ・ガンバ）の名手にして“古楽界のレジェンド”とも評されるジョルディ・サヴァールが、アイリッシュ・ハープのアンドルー・ローレンス＝キング、パウロンのフランク・マグワイアーとトリオを組み、ケルト音楽を特集した。1 ステージだけ、J.S. バッハとマレの無伴奏作品もサヴァールは弾いたが（水戸芸術館のみのプログラム）、それら西洋音楽の“本流”に位置する作品も、ケルト音楽と地続きの響きを持っていることが確認されたのが興味深かった。アンコールは、〈バスクの子守唄〉と〈リヴァプール・ホーンパイプ〉。《関根》アンケートから ■秋の夜長に聴くのにぴったりでした。ケル

トの雰囲気にとっぷりと浸ることができました。（水戸市の方） ■初めて聴くはずなのに、幼い頃どこかで耳にしたような、素朴でなつかしい響きでした。純朴だけれど、豊かな美をたんのうしました。（潮来市の方） ■大好きなサヴァールさんの演奏が見られてすばらしかった。CD と生の演奏はまったく違うと実感。とてもダイナミックで、来て良かった。（水戸市の方） ■予想通り内容はパプでギネス片手に聴く、というよりも学究的な感じで少々おかたい雰囲気ではありましたが、それでも、後半のアイリッシュのダンス音楽やアンコール曲で、ケルトの味わいを感じることができました。（水戸市：T.M. さん）

最近の公演から



1: ジョルディ・サヴァール・トリオ
ケルティック・ヴィオール

2017.9.16

茨城の名手・名歌手たち 第 27 回

4 月に行った出演者オーディション（鍵盤楽器・弦楽器・邦楽器・邦楽アンサンブル部門）に合格した茨城ゆかりの演奏家によるガラ・コンサート。出演は、菊池愛奈さん、所香菜さん、森田凧さん、石井里佳さん、岡安千尋さん、勝元和花奈さん（以上ピアノ）、久保田綾香さん、野口わかなさん、飛田和華さん（以上ヴァイオリン）、稲垣佳代子さん（箏）の 10 人。司会は昨年に続いてオーディション審査委員の一人、宮本文昭さん（元・水戸室内管弦楽団オーボエ奏者）が務めました。コンサートは全体で 3 時間にわたる熱演の連続。それぞれの演奏にはオーディションからこの演奏会に至るまでの約 5 ヶ月の成長ぶりが感じられました。《篠田》アンケートから■素晴らしい名手たち、若さあふれる演奏に感激。大きく成長することを期待します。（水戸市：S.T. さん）■箏の音色の変化（爪で弾くだけでなく指の腹で弾く奏法やギターのようなチョーキングのような奏法）に驚きました。迫力あるピアノも素晴らしかったです！（水戸市の方）■感動しました。皆様が今度はそれぞれの企画でリサイタルを開かれることを期待しています。（無記名の方）

2017.9.24

中田恵子 オルガン・リサイタル～音の展覧会～

つくば市出身のオルガニスト・中田恵子さんによる初リサイタルを開催しました。テーマは「音の展覧会」。曲のイメージを絵などで表現したものをスクリーンに映しながら、フランス音楽中心のプログラムが表情豊かに演奏されました。特にリテーズやヴィエルヌの作品では、中田さんが描いたイラストを映したり、球体に照明をあてて、曲想の変化とともに月の満ち欠けのイメージをお楽しみいただくなど、演出にも工夫を凝らした内容でした。終演後、CD「JOY OF BACH」発売にあわせて開催したサイン会も大盛況でした。《高巣》アンケートから■ユーモラスな解説もあり、オルガンになじみのない方でも鑑賞しやすい工夫が随所にあって楽しめました。サービス精神旺盛な部分も含めて、演奏者の個性がよく伝わってくる素晴らしい演奏会でした。（つくば市：M.A. さん）■中田さんの曲へのイメージが興味深く、楽しく聴かせて頂きました。これからも新しい試みを続けてほしいと思います。（埼玉県の方）

2017.10.13, 15

水戸室内管弦楽団第 100 回定期演奏会

水戸室内管弦楽団（MCO）の定期演奏会が第 100 回という節目を迎えた。この記念の公演に小澤征爾館長が選んだのが

ベートーヴェンの〈交響曲 第 9 番〉。10 月初頭に東京都内で行われた東京オペラシンガーズとのリハーサルで、小澤館長は通常の大規模な合唱団とオーケストラでは実現が難しい、声楽パートと管弦楽パートとの繊細なやりとりについて指示を出した。32 人の合唱団と 49 人の室内管弦楽団で、小澤館長がどのような〈第九〉を目指そうとしているのかを垣間見る瞬間であった。小澤館長の体力的な問題から、第 1、2 楽章の指揮は MCO メンバーでホルン奏者でもあるラデク・バボラークが務め、小澤館長は第 3、4 楽章を指揮した。バボラークは、その実力も人柄も、メンバーの誰もが認める「MCO ファミリー」の一員。小澤館長とも入念な打ち合わせを行い、メンバーからの音楽表現上の欲求を吸い上げながら、堂々たる演奏を息づかせた。そして、小澤館長の指揮に導かれ、MCO メンバーたちの演奏もより鋭さと熱量を増し、4 人のソリスト（三宅理恵〔ソプラノ〕、藤村実穂子〔メゾ・ソプラノ〕、福井敬〔テノール〕、マルクス・アイヒェ〔バリトン〕）と東京オペラシンガーズの歌手たちも加わり、ベートーヴェンの夢見た世界が細密画の如き繊細さで現前された。

10 月 12 日には、水戸市青柳公園体育館で水戸市内および近郊の小学 5 年生および 2,800 名を対象にした「子どものための音楽会」を開催。楽器紹介の後に、バボラークの指揮で〈第九〉の第 4 楽章を演奏。最後に小澤館長の指揮で、子供たち全員が〈喜びの歌〉を歌い上げた。同日夕方には、公開ゲネプロを実施。水戸市内の小中学生や特別企画「お二人の年齢を足すと 100 歳になるペア」にご応募くださった方などが来場された。エントランスホールと水戸京成百貨店では、MCO の 100 回に至る歩みを振り返るポスター展を実施した。《中村》アンケートから■何を言ってもウソになる程素晴らしい演奏会でした。ただ一つ確信をもって言えるのは、マエストロと水戸室内管弦楽団は、古今東西、誰も達し得ていない境地に達したということです。（神奈川県秦野市 T.N. さん）■第 1、2 楽章のパワーあふれる躍動感、それに比べて第 3 楽章があんなにも丸く優しい出だしで始まるとは、感動です。（水戸市：T.T. さん）■小澤さんの第 3 楽章の夢見ごちの気分。そして、第 4 楽章の座っているにもかかわらず、相変わらずのダイナミックな指揮姿。涙が出ました。バボラークさんのていねいな指揮でありながらも躍動感あふれる音楽にも感服しました。（北海道の方）■とてもすばらしく、涙が出ました。水戸でこんなすばらしい音楽が聴けることに幸せを感じました。（水戸市の方）



2：茨城の名手・名歌手たち 第 27 回演奏会

3：中田恵子 オルガン・リサイタル 音の展覧会

4：水戸室内管弦楽団 子どものための音楽会

5-8：水戸室内管弦楽団 第 100 回定期演奏会

チケット・インフォメーション

《11月25日(土)発売分》

■合唱セミナー 2018 (講師:新実徳英)

2018年2/4(日) 10:00 開始 (16:00 終了予定)

参加費 [全席自由] 一般 ¥1,000 / 高校生 ¥500 / 中学生以下 ¥300

※別途、楽譜代が必要です。

■藤村実穂子 メゾ・ソプラノ・リサイタル

2018年2/25(日) 15:00 開演

料金 [全席指定] 一般 ¥4,000 / ユース (25歳以下) ¥1,500

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり (20席以上) △…残席わずか (20席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

◎アンサンブル奏 コンサート ～巴里の空の下で vol.3～

……………11/12(日) 自由席○

◎千葉博美 ピアノ・リサイタル ～ハンガリーを愛した作曲家たち～

……………11/19(日) 自由席○

◎茅根順子 リサイタルⅣ ～日本歌曲のひとつ～

……………11/25(土) 売完

◎小さな聴き手のためのオペラ オペラシアターこんにゃく座『森は生きている』

……………12/3(日) 売完 (ACM劇場)

◎新ダヴィッド同盟 第5回演奏会

……………12/17(日) 中央×、左右・裏△、補助△

◎クリスマス・プレゼント・コンサート 2017

……………12/23(土・祝) 中央△、左右○

◎河原忠之の《水戸 de Opera!》Vol.1「ブッチーニ VS ヴェルディ」

……………2018年1/13(土) 中央○、左右○

※11/1(水) 現在の状況です。 ※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

エントランスホール

■パイプオルガン プロムナード・コンサート (入場無料)

□12/16(土) 金子雄太 13:00～(45分程度)

□12/24(日)《クリスマス・スペシャル》

山田由希子、山田文子 (ソプラノ)、山本徹 (チェロ) 13:00～(45分程度)

ACM 劇場

■小さな聴き手のためのオペラ オペラシアターこんにゃく座『森は生きている』

12/3(日) 14:00 開演

料金 [全席指定] 一般 ¥2,000 / 子ども (5歳～12歳) ¥1,000 /

一般ペア2名様 ¥3,500

■伝統芸能のスズメ [落語] 春風亭昇太独演会

12/6(水) 18:30 開演

料金 [全席指定] S席 ¥3,500 / A席 ¥3,000 / B席 ¥2,500

■『笑った分だけ、怖くなる』vol.2 出演:白石加代子、佐野史郎

12/16(土) 18:30 開演、12/17(日) 14:00 開演

料金 [全席指定] S席 ¥5,000 / A席 ¥4,500 / B席 ¥3,500

現代美術ギャラリー

■デイヴィッド・シュリグリー「ルーズ・ユア・マインドーようこそダークなせかいへ」

10/14(土)～2018年1/21(日) 9:30～18:00 ※入場は17:30まで

[休館日] 月曜日、年末年始12/27(水)～2018年1/3(水)

※ただし1/8(月・祝)は開館、翌1/9(火)休館

[入場料] 一般 ¥800 / 前売り・団体 (20名以上) ¥600

※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

水戸の主な12月の演奏会

■佐川文庫 TEL / 029(309)5020

・クリスマスコンサート 鈴木舞&加藤大樹 duo リサイタル

12/23(土・祝) 18:00 開演

■茨城県立県民文化センター TEL / 029(241)1166

・五木田綾&見澤淑恵 Christmas Concert クリスマスに贈る 華麗なるショパン

12/16(土) 14:00 開演 (小ホール)

・プラス・フェスティバル2017 ウィーン=ベルリン・プラス・クインテット

12/17(日) 14:00 開演 (大ホール)

水戸芸術館の主な12月のスケジュール

コンサートホール ATM

■水戸の街に響け! 300人の《第九》2017

12/10(日) 1回目 12:00 開演 / 2回目 13:30 開演

入場無料 [会場: 広場] ※雨天時はコンサートホール ATM

■新ダヴィッド同盟 第5回演奏会

12/17(日) 16:00 開演

料金 [全席指定] S席 ¥6,000 / A席 ¥5,000 / B席 ¥3,500 /

ユース (25歳以下) ¥2,000

■クリスマス・プレゼント・コンサート 2017

12/23(土・祝) 17:00 開演

料金 [全席指定] 一般 ¥3,500 / ユース (25歳以下) ¥1,000

チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000

営業時間: 9:30～18:00 (月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118

ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>

公式ブログ <http://blog.arttowermito.or.jp/staff/>

ATM 便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場



@ConcertHall_ATM @art_tower_mito



www.facebook.com/arttowermito

編集後記

よ りによってMCO期間中にスマホが水没しました。(咲)さんに教わった、お米に濡れたスマホを漬ける方法も試しましたが、完全復活には至らず、交換を余儀なくされました。もうジーパンのポケットには入れません。(り)

初 めてお笑いライブを見に行きました。人生であんなに笑ったのは初めてで、70分間笑いっぱなし!途中からほっぺを抑えながら見ていました。実際に見た方が何十倍、何百倍と面白い!これはハマリそうな予感…(咲)

先 日、雨の中転んで前歯を折ってしまいました。生まれて初めて歯医者に行きました。麻酔を打つとどんなことをされていても全く痛みを感じないことに感動!初めて歯石も取ってもらい、前歯以外はかなり健康になりました。(鴻)

出 動するとき「気をつけて」と言われて送り出してくれた妻。それを聞いて、水鉄砲を取ってきて持たせようとしてくれた長男。……護身用って言うこと?「気をつけて」の意味合いが違うだけだな。でもありがとうね。(篠)

去 年12月号でダイエット成功の編集後記を書いてからちょうど1年。なんと体重、キープしております。今は普通の食生活ですが、食べる量も飲む量も、満タンの値が低くなっていることを実感。年齢ですね。(て)

京 都の国宝展へ。重鎮揃いの作品展、もしマイベストを一つ選ぶなら、絢爛たる金地に風神雷神が躍動する屏風だろうか。見入っていると、どこからか「漫画みたいな顔やなあ」と呟く声。図らずも両神がぐっと身近に。(樹)

大 病を克服して、今も変わらず作曲活動を行う間宮芳生先生の新作ヴィブラフォンとマリンバのための音楽》を聴いた。作品委嘱・演奏は若き才能・曾田瑞樹さん。終曲には岐阜の雨乞歌が登場。その世界観は健在だ。(中)

水戸芸術館音楽紙「ヴィーヴォ」
2017年11月発行 第223号
編集発行: 水戸芸術館音楽部門
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130
E-MAIL ankmr@arttowermito.or.jp